

## 2017年3月期 中間決算について

- 2017年3月期(2016年度)中間連結決算は、前年同期比「減収減益」。航空機発着回数、国際線発着回数、航空旅客数、国際線外国人旅客数、国内線旅客数は開港以来最高を記録。航空機発着回数は好調なもの、航空機材の平均着陸重量減少等により空港使用料収入は伸び悩んだ。一方、引き続き好調な訪日需要等を背景に国際線外国人旅客数が増加したことに伴い、旅客施設使用料収入は増加。また、物販・飲食収入、構内営業料収入は、円高や中国の関税率引き上げ等により中国人旅客の購買意欲が低下したこと等もあり減少し、結果として、営業収益は減収、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する中間純利益も減益となった。
- 通期連結業績予想は、5月13日発表の予想から、いわゆる「爆買い」沈静化等に伴う物販・飲食収入、構内営業料収入の減少が影響し、営業収益、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益のいずれも「下方修正」。前期比「減収減益」と見込むが、営業収益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は前期に次ぐ民営化以降第2位の水準となる見通し。

## 1. 航空取扱量について

区 分	中間期(4月1日～9月30日)				通期(4月1日～3月31日)				※参考 2016年度 当初見通し (5月13日 発表)
	2015年度	2016年度	増減①		2015年度	2016年度	増減②		
	実績 A	実績 B	数量 B-A	% B/Ax100	実績 C	見通し D	数量 D-C	% D/Cx100	
航空機発着回数(万回)	11.8	12.3	0.5	104.4	23.5	24.7	1.1	104.8	24.4
国際線	9.1	9.7	0.6	106.5	18.4	19.4	1.1	105.9	19.2
国内線	2.7	2.6	△0.1	97.3	5.2	5.2	0.1	101.1	5.3
航空旅客数(万人)	1,931	1,993	62	103.2	3,794	3,915	121	103.2	3,909
国際線	1,576	1,637	61	103.8	3,106	3,203	98	103.1	3,212
国内線	355	357	2	100.4	689	712	23	103.3	697
国際航空貨物量(万トン)	100	105	5	104.8	198	206	8	103.9	196
給油量(万kl)	230	231	2	100.7	457	455	△3	99.4	459

## (1) 2016年度中間期の実績【増減①】

(注)航空取扱量は、単位未満を四捨五入して表示しております。

- 航空機発着回数は、韓国線、台湾線等アジア方面を中心とした国際線の新規就航や増便等により増加、5期連続で開港以来最高値を更新。
- 航空旅客数は、引き続き好調な訪日需要等を背景に国際線外国人旅客数が堅調に推移したことから前年同期に比べて増加、2期連続で開港以来最高値を更新。
- 国際航空貨物量は、仮陸揚貨物量が増加したことから前年同期に比べて増加。
- 給油量は、近距離・小型機材路線の割合が増加したものの発着回数の増加により、前年同期に比べて増加。

## (2) 2016年度通期の見通し【増減②】

- 航空機発着回数は、引き続きアジア方面を中心とした新規就航や増便等により前期を上回る見通し。
- 航空旅客数は、国際線で引き続き中華圏を中心とした旺盛な訪日需要による外国人旅客数の増加が続き、前期を上回る見通し。
- 国際航空貨物量は、引き続き仮陸揚貨物量が好調に推移することから、前期を上回る見通し。
- 給油量は、近距離・小型機材路線が増加し、長距離・大型機材路線が減少することから前期を下回る見通し。

## 2. 連結決算について

(単位:億円)

区 分	中間期(4月1日～9月30日)				通期(4月1日～3月31日)				※参考 2016年度 当初予想 (5月13日 発表)
	2015年度	2016年度	増減		2015年度	2016年度	増減		
	実績 A	実績 B	金額 B-A	% B/Ax100	実績 C	予想 D	金額 D-C	% D/Cx100	
営業収益	1,128	1,085	△42	96.2	2,184	2,183	△1	99.9	2,300
営業利益	257	235	△21	91.6	433	393	△40	90.7	449
経常利益	236	212	△24	89.8	385	351	△34	91.0	401
親会社株主に帰属する 中間(当期)純利益	154	145	△8	94.4	242	237	△5	97.7	274

(注)業績予想は、当社が現時点で想定した航空取扱量等に基づき作成したものであり、不確定要素を含んでおります。

### (1) 経営成績の概要

営業収益は1,085億円(前年同期比42億円、3.8%の減少)、営業利益は235億円(同21億円、8.4%の減少)、経常利益は212億円(同24億円、10.2%の減少)、親会社株主に帰属する中間純利益は145億円(同8億円、5.6%の減少)となり、「減収減益」(営業収益、親会社株主に帰属する中間純利益は民営化以降第2位)

### <セグメント業績>

(単位:億円)

科目	2015年度 中間期	2016年度 中間期	増減	
	実績 A	実績 B	金額 B-A	% B/A×100
営業収益 ※	1,128	1,085	△42	96.2
空港運営事業	524	531	7	101.5
リテール事業	435	385	△49	88.6
施設貸付事業	154	153	△1	99.3
鉄道事業	14	14	0	101.6
営業利益	257	235	△21	91.6
空港運営事業	46	44	△2	95.5
リテール事業	135	113	△22	83.4
施設貸付事業	72	75	2	104.0
鉄道事業	3	2	△0	86.1

### ※外部顧客に対する売上高

- ▶ 空港運営事業: 航空機発着回数は好調なもの航空機材の平均着陸重量減少等により空港使用料収入は伸び悩んだが、国際線外国人旅客数の増加に伴い、旅客施設使用料収入が増加したことから、営業収益は前年同期比1.5%増の531億円、営業利益は退職給付費用の増加等により同4.5%減の44億円と「増収減益」。
- ▶ リテール事業: 円高や中国の関税率引き上げ等による中国人旅客の購買意欲低下(いわゆる「爆買い」沈静化)等により子会社の物販・飲食収入及びテナントからの構内営業料収入が減少したことから、営業収益は前年同期比11.4%減の385億円。営業利益は同16.6%減の113億円と「減収減益」。
- ▶ 施設貸付事業: 営業収益は前年同期並みの153億円。営業利益は同4.0%増の75億円と「減収増益」。
- ▶ 鉄道事業: 営業収益は前年同期並みの14億円。営業利益は同13.9%減の2億円と「増収減益」。

## (2) 財政状態の概要

(単位: 億円)

科目	2015年度期末	2016年度中間期末	増減	
	実績 A	実績 B	金額 B-A	% B/A×100
流動資産	579	528	△50	91.2
固定資産	7,962	7,819	△143	98.2
資産合計	8,542	8,347	△194	97.7
流動負債	1,115	701	△414	62.9
固定負債	4,471	4,613	142	103.2
負債合計	5,587	5,315	△272	95.1
純資産合計	2,954	3,032	77	102.6

▶資産合計は、旅客ターミナルビル固定ゲート延伸等に係る工事未払金の支払いに伴い現金及び預金等が減少し流動資産が減少したこと、設備投資による増加以上に減価償却が進み固定資産が減少したことから、前期末比 194 億円(2.3%)減の 8,347 億円。

▶負債合計は、長期借入金の返済等により前期末比 272 億円(4.9%)減の 5,315 億円。有利子債務残高は、同 104 億円(2.3%)減の 4,475 億円、平均金利は前期末比 0.09 ポイント低下し、0.97%。無利子債務を加えた長期債務残高は、同 104 億円(2.2%)減の 4,639 億円。

▶純資産合計は、前期末比 77 億円(2.6%)増の 3,032 億円。自己資本比率は、前期末の 33.5%から 35.2%へ増加。

### <連結長期債務の推移>

(単位: 億円)

科目	2015年度期末	2016年度中間期末	増減		平均金利	
	実績 A	実績 B	金額 B-A	% B/A×100	2015年度 期末	2016年度 中間期末
有利子債務	4,579	4,475	△104	97.7	1.06%	0.97%
社債	3,409	3,559	150	104.4	1.18%	1.15%
長期借入金	1,169	915	△254	78.2	0.69%	0.26%
無利子債務						
長期借入金	164	164	-	100.0	-	-
合計	4,744	4,639	△104	97.8		

## (3) キャッシュ・フローの概要

(単位: 億円)

科目	2015年度 中間期	2016年度 中間期	増減
	実績 A	実績 B	金額 B-A
営業活動によるキャッシュ・フロー	327	325	△1
投資活動によるキャッシュ・フロー	△319	△191	128
フリー・キャッシュ・フロー	7	133	126
財務活動によるキャッシュ・フロー	△66	△178	△111

● フリー・キャッシュ・フローは、133 億円のキャッシュ・イン(前年同期比 126 億円の増加)

▶営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前中間純利益が減少したこと等により、前年同期比 1 億円減の 325 億円のキャッシュ・イン。

▶投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の取得による支出が減少したこと等により、前年同期比 128 億円減の 191 億円のキャッシュ・アウト。

▶財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済による支出の増加等により、前年同期比 111 億円増の 178 億円のキャッシュ・アウト。

#### (4) 通期の連結業績予想

営業収益は2,183億円（前期比1億円、0.1%の減少）、営業利益は393億円（同40億円、9.3%の減少）、経常利益は351億円（同34億円、9.0%の減少）、親会社株主に帰属する当期純利益は237億円（同5億円、2.3%の減少）と「減収減益」の見込み、いずれも前回予想より下方修正となるものの、営業収益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は前期に次ぐ民营化以降第2位の水準となる見通し

#### <セグメント業績>

（単位：億円）

科目	2015年度	2016年度	増減		※参考 2016年度 当初予想 (5月13日 発表) C	増減	
	実績	予想	金額	%		金額	%
	A	B	B-A	B/A×100		B-C	B/C×100
営業収益 ※	2,184	2,183	△1	99.9	2,300	△117	94.9
空港運営事業	1,037	1,051	13	101.3	1,061	△10	99.1
リテール事業	813	802	△11	98.5	906	△104	88.5
施設貸付事業	303	300	△3	98.8	302	△2	99.3
鉄道事業	29	29	△0	98.8	29	-	100.0
営業利益	433	393	△40	90.7	449	△56	87.5
空港運営事業	49	23	△26	46.9	32	△9	71.9
リテール事業	244	227	△17	92.7	280	△53	81.1
施設貸付事業	136	138	1	101.2	134	4	103.0
鉄道事業	6	5	△1	81.4	4	1	125.0

※外部顧客に対する売上高

(注)業績予想は、当社が現時点で想定した航空取扱量等に基づき作成したものであり、不確定要素を含んでおります。

- 空港運営事業は、航空機発着回数は増加するものの航空機材の平均着陸重量減少等により空港使用料収入は伸び悩むが、外国人を中心とした航空旅客数が引き続き堅調に推移することから旅客施設使用料収入が増収となり、営業収益は増収となる見込み。しかしながら、退職給付費用の増加等により、結果として「増収減益」となる見通し。
- リテール事業は、外国人を中心とした航空旅客数が引き続き堅調に推移する中、更なる販売促進施策に取り組む他、下期には、飲食店(NARITA Dining Terrace)や免税店・ブランドモール(ナリタ5番街)のリニューアル等店舗拡充や売上効率の向上を図り、売上拡大に努めるものの、いわゆる「爆買い」沈静化等の影響により、結果として「減収減益」となる見通し。
- 施設貸付事業及び鉄道事業は、ほぼ前期並みとなる見通し。

以上

成田国際空港株式会社

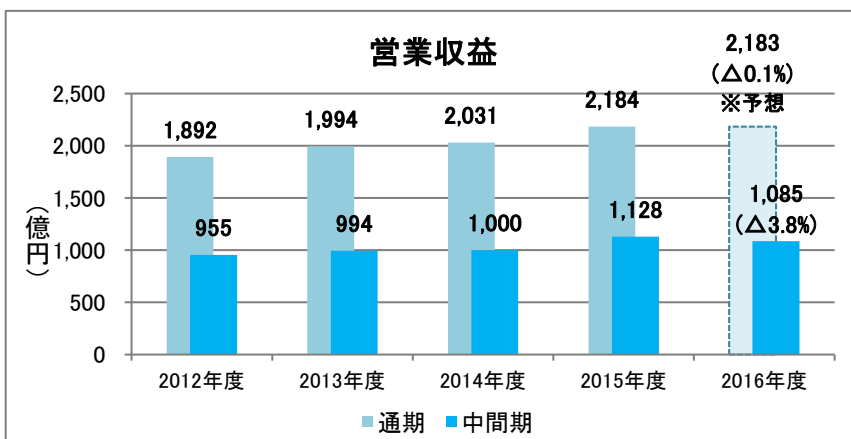
〒282-8601 千葉県成田市成田国際空港内 NAA ビル

URL : <http://www.narita-airport.jp/jp/>

WORLD  
SKY GATE  
NARITA

**参考**

**【連結決算推移】**



<2016 年度中間期>

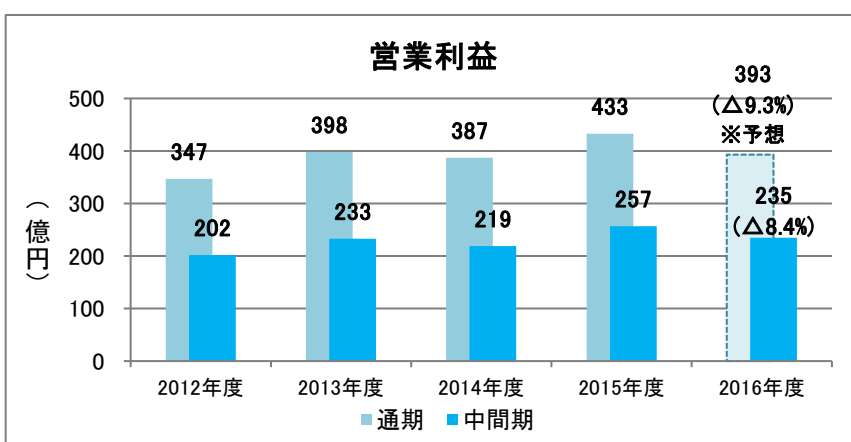
- ・5 期ぶりの減収
- ・前年同期に次ぐ民営化以降第 2 位

<2016 年度通期予想>

- ・前期に次ぐ民営化以降第 2 位となる見通し

<これまでの民営化以降最高>

- ・2015 年度 2,184 億円



<2016 年度中間期>

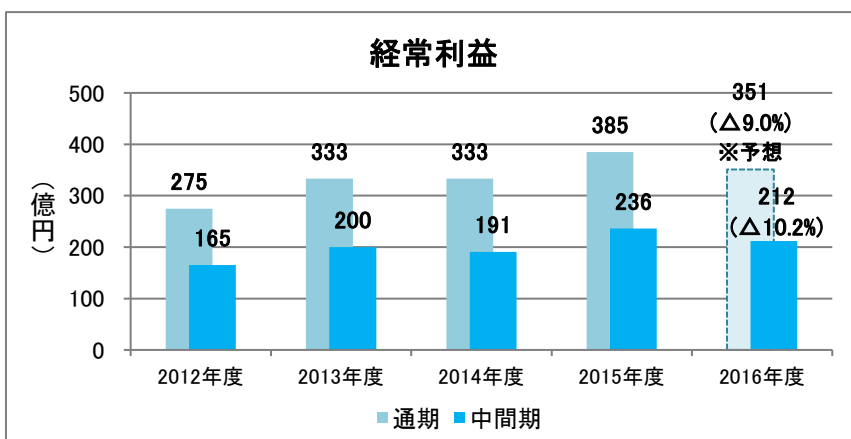
- ・2 期ぶりの減益

<2016 年度通期予想>

- ・民営化以降第 5 位となる見通し

<これまでの民営化以降最高>

- ・2015 年度 433 億円



<2016 年度中間期>

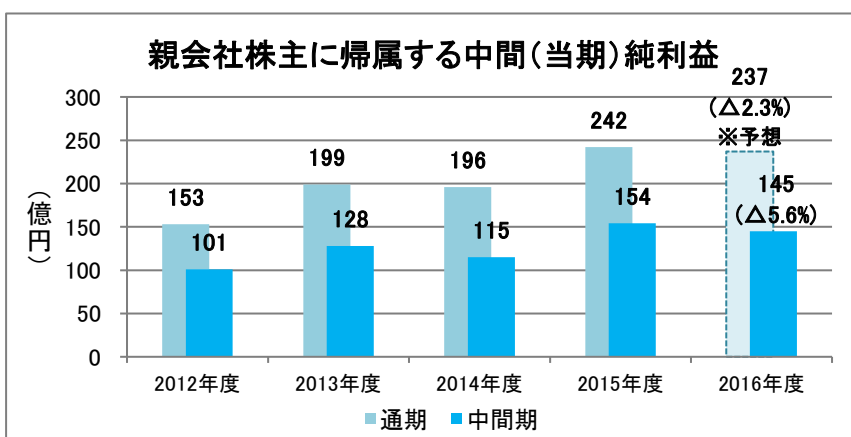
- ・2 期ぶりの減益

<2016 年度通期予想>

- ・前期に次ぐ民営化以降第 2 位となる見通し

<これまでの民営化以降最高>

- ・2015 年度 385 億円



<2016 年度中間期>

- ・2 期ぶりの減益
- ・前年同期に次ぐ民営化以降第 2 位

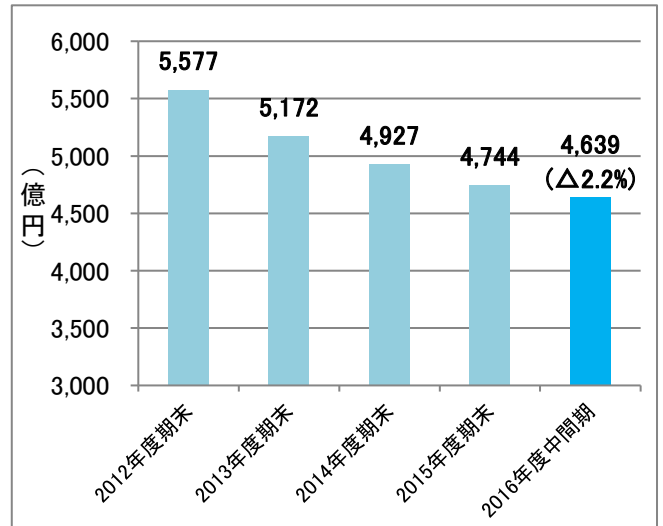
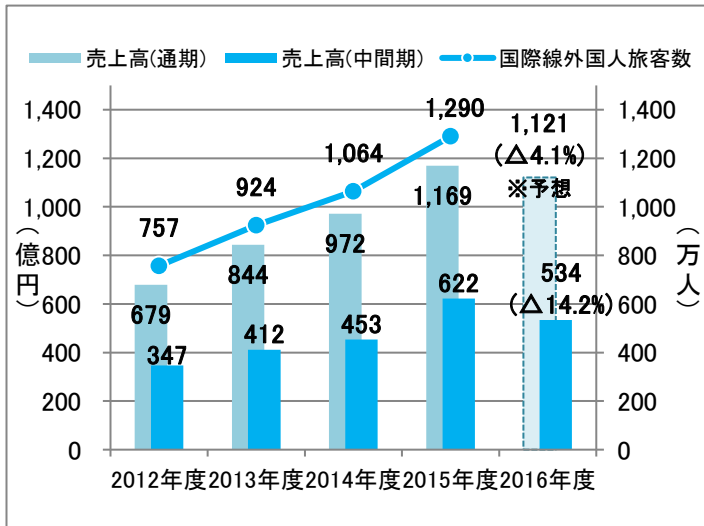
<2016 年度通期予想>

- ・前期に次ぐ民営化以降第 2 位となる見通し

<これまでの民営化以降最高>

- ・2015 年度 242 億円

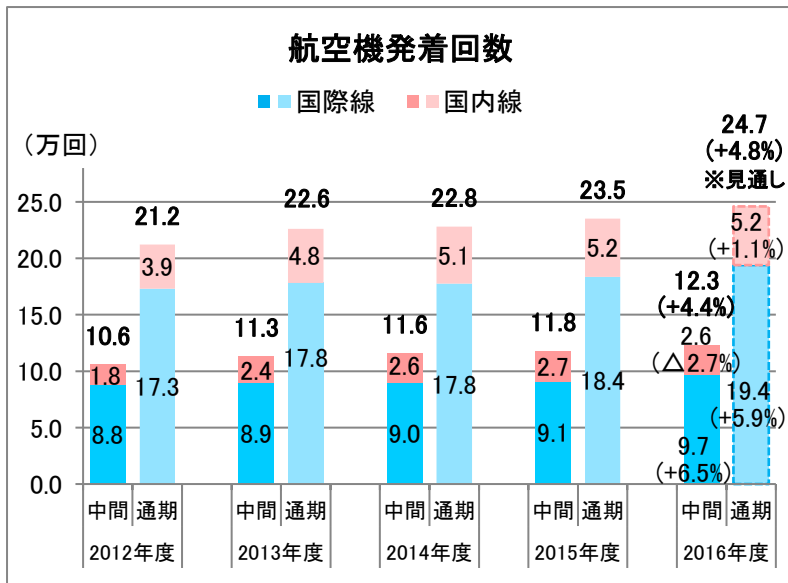
**【空港内免税店・物販店・飲食店売上高推移】 【連結長期債務残高の推移】**



**【空港内免税店・物販店・飲食店売上高推移】**

<2016 年度通期見通し> ・5 期ぶりの減少 ・前期に次ぐ民営化以降第 2 位となる見通し  
 <これまでの民営化以降最高> ・2015 年度 1,169 億円

**【航空取扱量推移】**



<2016 年度中間期>

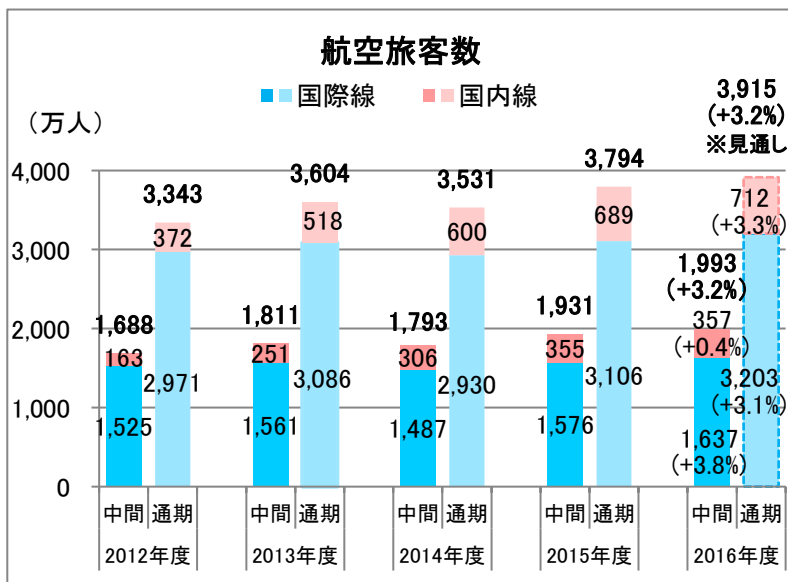
- ・5 期連続で開港以来最高を更新
- ・(国際線) 2 期連続で開港以来最高を更新

<2016 年度通期見通し>

- ・航空機発着回数全体、国際線及び国内線発着回数において開港以来最高を更新する見通し

<これまでの過去最高>

- ・全体: 2015 年度 23.5 万回
- ・国際線: 2015 年度 18.4 万回
- ・国内線: 2015 年度 5.2 万回



<2016 年度中間期>

- ・2 期連続で開港以来最高を更新
- ・(国内線) 5 期連続で開港以来最高を更新

<2016 年度通期見通し>

- ・航空旅客数全体及び国内線旅客数において開港以来最高を更新する見通し

<これまでの過去最高>

- ・全体: 2015 年度 3,794 万人
- ・国際線: 2015 年度 3,419 万人
- ・国内線: 2015 年度 689 万人